

大会応援伝道の報告
—信仰と伝道の力はどこからくるのか—

久留米教会牧師 枝松博展

2019年6月8日(土)～9日(日)、久留米教会、佐賀めぐみ教会では、久野のぞむ牧師(函館相生教会)を講師に迎えて、大会伝道局支援のもと応援伝道を実施する恵みを与えられました。久留米、佐賀めぐみ教会が合同で行ったのは、久留米の牧師が現在無牧の佐賀めぐみ教会を応援しているという事情によることです。しかしこのような形でしたが、40年近く前、筑後(犬塚、八女、久留米等)、佐賀の伝道に深い関わりを持たれた久野牧先生を迎えて大会応援伝道を行えたことは何よりの幸いで、皆、懐かしさと共に、主にある恵みに感謝したことです。日程は、8日(土)が久留米の教会研修会、9日(日)午前、久留米の伝道礼拝、9日(日)午後、佐賀めぐみ教会の伝道礼拝というスケジュールでした。

8日(土)は久留米の教会研修会(伝道と教会形成について)でしたが、その内容を久留米の長老は、月報に次のように記しました。「…伝道の困難の中、神の招きに応答する者たちの群れは、いつも小さな群れであることを示された。日本のキリスト者人口は全人口の1%である。それゆえ残りの99%が伝道の対象だという発想の転換を、という講師の言葉が心に残った。そして久野牧先生は、伝道の力はどこから来るのか(教会形成の目指すもの)として、①生き生きとした、活力にあふれた礼拝をささげる群れ、②揺るがない信頼に満ちて熱心に祈る

群れ、③熱心に聖書を読む群れ、④キリスト教教理の正しい理解のために学ぶ群れ、⑤主イエスに倣った生を生きることによって、キリストを証しすることができる、と。これらが主の御業であることを心に留め、翌日の礼拝に臨みました」と。

翌日9日(日)午前は、久留米教会の伝道礼拝でした。「イエス・キリストの名によって歩け」との説教題のもと、使徒言行録3章1～10節の説き明かしに聞き入りました。癒しは信仰を起こし与えて下さった生ける主の御業であることを深く示され(3:16)、信仰の歩み、伝道への思いを新たにされました。

出席者は現在、久留米教会の会員となっている旧犬塚伝道所の関係者4名も含めて33名(新来会者1名)でした。礼拝後、日曜学校の子どもたちが作った「お好み焼き」を食し、講師と共に、佐賀に向かいました。



「ITやネットによる教会のことば」

北海道中会伝道局

北海道中会では、8月19日(月)から20日(火)にかけて「教会のことばと方法を探る～それぞれの立場からの発言～」というテーマのもと、札幌北一条教会を会場に伝道協議会が開かれた。4人の発題者により、伝道のあり方について様々な立場から発題してもらい、そのあと参加者全員が各発題者のテーマ別に四つのグループに別れ、協議の時を持った。発題のひとつとして札幌琴似教会の中澤禎長老より「ITやネットによる教会のことば」というテーマで概略以下のような発題がなされた。

教会のことばの第一は、「礼拝説教」である。

やはり礼拝における御言葉の説教が一番である。したがってすべての事柄が、この礼拝説教へと誘うことが重要である。そのための方法・手段としてインターネットを通して興味を持ってもらい、教会へ足を運びきっかけを与えることが、ホームページなどITの一つの使命と考える。

1. 教会ホームページについて

○教会ホームページを活性化するために

教会が活性化すればするほど、教会ホームページも活性化する。教会の建物や設備よりも、そこにどれだけ「信仰の喜び」が表現されているかが課題であり、それを読み取れるホームページであることが理想である。教会ホームページは、教会メンバーのみを対象とするのではなく、キリスト

教を知りたいという人、教会を知りたい、行ってみたいという人の「目線」で表現され、そのニーズに適切に応えるものでありたい。

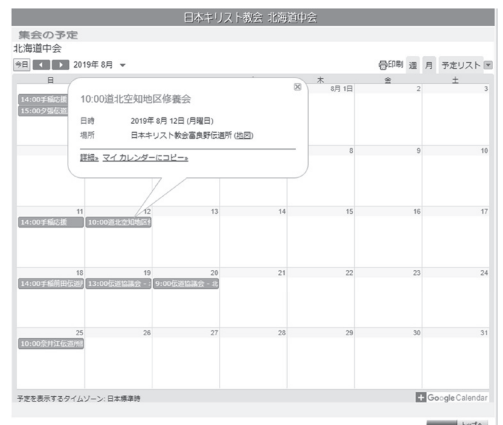
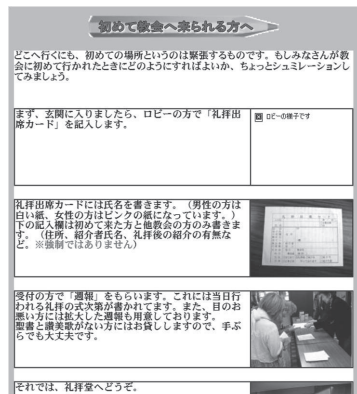
教会と地域との関係を表した記事も貴重な《福音=good news》である。町おこしや地域行事への参加、地域で活躍している人の紹介など。その地域を知るために調べているうちに教会ホームページに迷い込んでしまったというケースが生じるのが理想的である。教会で行われている「入門講座」と連動しているホームページでありたい。他の教会ホームページで書かれていることを自分の教会でもやってみて、リンクを張る。他の教会のコンテンツも利用させていただくというのが賢いやりかたである。

2. Facebook、Twitter、ブログの活用について

導入している教会：札幌北一条教会、苫小牧教会、遠浅教会、仙台黒松教会、宇都宮松原教会、浦和教会、志木北伝道所、荻窪北教会、柏木教会、蒲田御園教会、鶴見教会、横浜海岸教会、吉田教会、大阪西教会、高知旭教会など



※函館相生教会のホームページ画面



※北海道中会のホームページ画面

3. YouTubeなどでの動画配信・音声配信について

柏木教会、袋井愛野めぐみ教会、岐阜教会、福井宝永教会、香里園教会、住吉教会、姫路伝道所、福岡城南教会など

4. メーリングリストやLINEグループについて

信徒大会ねっと it-bof@nikki-church.org

長老ネット choro@nikki-church.org

全国青年部 Messenger グループ 札幌琴似教会 長老LINEグループ

5. 礼拝のライブ配信について

現在、神戸湊西教会、姫路伝道所、札幌琴似教会などで取り組まれている。

インターネット礼拝をオープンに実施している教会は、品川教会や東京カベナント教会、大和カルバリーチャペル、フルゴスペル福岡教会など単立や福音派の教会が多い。

札幌琴似教会は、ID、PWを付与したクローズドなインターネット礼拝である。その主な目的は、高齢や健康上の理由などで教会に来ることができない教会および関係者のために共に礼拝にあずかることを提供しているものであり、対象者は原則的に不特定多数ではなく、あくまで教会員。

礼拝のライブ配信を行っています	受信関連ボタン
● 毎週日曜日10:10分~11時30分 (他の時間は受信できません。)	ライブ受信
● パスワードが必要です。事前にお問い合わせください。	お問い合わせ
● 受信の際には礼拝のプログラムをご覧いただくことをお勧めします。	礼拝プログラム

※札幌琴似教会ホームページ上の礼拝ライブ配信の案内

牧師不足の北海道中会において

ライブ配信を用いた一つの手法

○北海道中会の問題点

10人の牧師でこの広い北海道に点在する30の教会を牧会するには今の体制では不可能である。一人で3箇所の礼拝をするには日曜に礼拝する現状を根本的に変えなければならない。強いて言えば札幌圏なら複数教会の牧会が可能である。あるいは教会の統合、合併が可能な距離である。しかし、教会の合併は教会員の心情を鑑みると現実的には困難である。反面、地方へ行くと経済的理由で一つの教会で一人の牧師を支えられない現実もある。

牧師の数が足りない中で、よりリアルティのある礼拝を実現する



※姫路伝道所のライブ配信礼拝の案内にはライブ配信が有効であると考えられる。具体的なイメージで言うと二つの教会は、年間主題や基本方針を同一にする。両方を牧会する牧師が一週間おきにそれぞれの教会で説教をし、もう一つの教会がライブ配信を受信しながら礼拝する。この方法だと二つの教会に連なる教会員や求道者に教会のことばを日曜日ごとに伝えることができる。

二つの教会で一人の牧師を支えることにより経済的にも安定し、教会のことばの発信に力を注ぐことができる。あるいは、中会内における伝道所に対してもライブ配信の参加を働きかけることが可能になる。この方法であれば伝道所の経済的負担は今よりもずっと少なくなるはず。

以上が中澤禎長老の発題の内容であるが、発題のあとのグループ別協議では、以下のような意見が出された。

- ・ITやインターネットになじみのない人たちも教会内にはまだ多いので、導入するにあたっては、そういう人たちにも理解が得られるように教会員全員に丁寧な説明が必要。
- ・ITやインターネットの利用は、リアルな出会いや交わり（例えば現実に礼拝に足を運んでもらう等）を追求していくためのあくまで手段に過ぎないことを肝に銘じて導入すべき。
- ・ライブ配信での礼拝は、受ける側にとって果たしてそれが「礼拝」と言えるのかどうかということも議論すべき。
- ・先入観を持たずにとにかく早急に導入すべき。教会はこういうことにはとかく及び腰であり、世の中の動きにかなり遅れている。ITやインターネットの世界では技術革新が急速に進んでおり、これを利用しない手はない。

無牧の中で与えられた希望

佐賀めぐみ教会長老 栗林 恵一

当教会は、現住陪餐会員男性3名、女性12名の計15名、平均年齢67.5歳という小さな群れです。2016年4月より専任牧師不在となり、約3年半が経とうとしています。その間、久留米教会の枝松博展牧師に応援教師としてご尽力いただき、毎月第2日曜日の午後2時からの礼拝において説教奉仕・聖餐式執行、礼拝後「小信仰問答の学びと交わり」の時を持ち、会員との交わりを深めています。第2以外の主日礼拝は午前10時15分から、説教は基本的には長老5人、会員2人でローテーションを組み奉仕しています。長崎伝道所の崔炳一牧師と折尾伝道所の北村千尋牧師（6月で引退）がそれぞれ年に3～4回づつ主日礼拝説教奉仕いただいております。あと第1日曜日は福岡女学院関係の牧師に主日礼拝説教奉仕いただいております。それと在日大韓キリスト教会の牧師および日本神の教会連盟佐賀神の教会の牧師にそれぞれ年に1回づつ主日礼拝説教奉仕いただいております。多くの方々に支えられ、主日ごとの礼拝を1度も欠かすことなく守られている恵みを感謝いたします。

しかしながら専任牧師不在ということで、初めての来会者がいらっしゃっても交わりを深めることが出来ず、一度きり或いは数回の礼拝出席で終

わってしまわれる方も数名いらっしゃいました。主日毎の礼拝を守ることに精いっぱい、外に向かって伝道することの難しさを覚えています。

そんな中、今年（2019年）6月9日(日)大会応援伝道の機会が与えられ、函館相生教会の久野牧先生をお招きし特別伝道礼拝を実施することが出来ました。当日は男性9名、女性22名、計31名の出席があり、久しぶりに当教会の主日礼拝に出席された方が数名いらっしゃり、また、初めて出席された方が1名いらっしゃいました。特に初めて出席された方は近隣在住の80歳代の女性の方で、「特別伝道礼拝の案内パンフレットを見て来ました」ということでした。その後、毎週礼拝に出席されています。

伝道することの苦手(!?)な当教会におきましてはまさに特別伝道礼拝の恵みといえることでした。このことを通して、外に向かって伝道することの大切さを改めて思い知らされました。主が招いてくださることに感謝し、主が用いてくださることに感謝し、無牧の中ではありますが、希望をもって伝道して行きたいと思っております。



今年度前半の大会応援伝道

遠軽教会 9月8日(日)

講師 南 純(東京中会引退教師)

長崎伝道所 11月10日(日)

講師 五十嵐喜和(西経堂伝道所牧師)

高知旭教会、観音寺教会 11月17日(日)

講師 上山 修平(横浜海岸教会牧師)